



山口としや 通信 第6号

東京オリンピック・パラリンピック開催

9月8日、ブエノスアイレスで行われたIOC総会にて2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。スポーツに携わってきた人間として本来なら大喜びするはずですが、最終プレゼンテーションでの安倍首相の発言を聞き、手放しでは喜ばせませんでした。福島原発事故の状況や避難されている方々のことを思うと、胸中は複雑です。

福島から金沢に避難されている浅田ご夫妻の講演会で聞いた、「命を基に考えれば、道は見えてくる」という言葉を大切に、これからも活動を続けます。

2013年9月会議報告

休日当番医の午後の検診を求める

(質問) 現在、午前9時から12時までの診察となっている休日当番医だが、金沢市や能美市のように午後の検診ができないか。

→ (健康福祉部長) 白山ののいち医師会に

医師会の協力がないと、実施できません。松任石川中央病院とつるぎ病院では、日曜、祝日、夜間も含め24時間体制で救急対応をしているので、今のところ、その病院を利用するしかありません。

お願いし、実施している。これまでも、午後の実施を要請しているが、様々な課題があり、検討したいということである。市として、実施に向けて要請していきたい。



コミュニティビジネスに支援を

(質問) コミュニティビジネスについて、どのような見解を持っているか。

→ (市長) 地域を活性化するために何かしたいという市民の皆さんの熱意が最も大切。また、地域の人材や自然などの資源を有効に活用することも重要である。

(質問) 白山市総合計画後期基本計画の白山ろくの振興の基本的方向の中に、コミュニティビジネスの創出を図ると書かれているが、現状はどうなっているか。

→ (市長) 手取峡谷ウォーターパークでは、ポートやライフジャケットなどを貸与し支援。「かわち農林水産物処理加工施設」や「にわか工房」、「菜さい」などでは施設整備の支援。「白山ふもと会」など7つの

団体に対し活動支援を行っている。



コミュニティビジネスに興味を持つ中村さんと相談中。仲間作りが大切です。辰巳町の「ゆめの駅」にて

(質問) 金沢市でのコミュニティビジネス推進事業や能美市でのワーク・イン・レジ

デンス制度のように、白山ろくに限らず、白山市全域でコミュニティビジネスの支援ができないか。

→（企画財政部長）国や県の助成制度などの



手取峡谷ウオーターパーク。地元有志の白山アドベンチャークラブが運営。黒字でした。

の動向を注視しながら、補助金に限らず、人的支援や物的支援も含め

て、相談のあったそれぞれに支援ができないか、考えたい。

（質問）窓口である企画課に相談をしてほしいということだが、敷居が高い。市民にとって見えるように、市民協働課などのように名称を変更したらどうか。

→（企画財政部長）厳密に窓口を決めていなかったが、企画財政部の企画課に相談いただければ、担当課につないでいきたい。

名称変更については、組織機構に関することなので、ここでやれるとは言えないが、ホームページなどで紹介していきたい。



積極的に市から働きかけをすることはなく、「相談があれば」という待ちの姿勢です。この姿勢を変えていきたいです。しかし、企画財政部の企画課が窓口であると明言したので、市民のために、こんなことがやりたいと考えている人は、ぜひ市役所5階の企画課に問い合わせして下さい。

「お好み住宅」制度で定住促進を

（質問）広島県安芸高田市の川根地区で取り入れて成功した「お好み住宅」制度を白峰「天河の郷」宅地分譲地に取り入れられないか。（お好み住宅とは、入居者の希望にそった一戸建ての市営住宅を建設し、入居してもらう制度。入居条件に定住の意志や中学生以下の子どもがいる世帯などとし、定住促進に成功した。）

→（企画財政部長）市営住宅なので維持管理費などは市の負担になる。新たに市営住

宅を建設するという事は、現状考えていない。「天河の郷」にこの制度を取り入れることは困難である。

（質問）白峰だけでなく、地域振興、定住促進策として、過疎に悩む白山ろくの各地域で取り組めないか。

→（企画財政部長）住宅ではなく、過疎債が使える他の事業で定住促進策がないか研究していきたい。



「赤字のハコモノは廃止していく」市の財政を考えれば仕方ないことかもしれません。鳥越地区のバードハミングの宿泊部門や温水プール、白峰地区の桑島総湯など、地元が大切にしていた施設が今年4月から廃止となっています。しかし、「廃止、廃止」ばかりで、定住人口を増やす施策が見えず、白山ろくの方々は怒っています。過疎が進んでいくばかりです。観光では定住人口は増えません。何か定住人口を増やす方策はないか、考え提案していきます。

子どもの権利条例といじめについて問う

（質問）子どもの権利条例の認知度を上げるためのシンポジウムの開催の準備状況はどうなっているか。

→（教育長）10月27日（日）13時30分から市民交流センターで行う。

（質問）早急すぎないか。市民へのPRは大丈夫か。

→（教育長）今年度に入って日程の調整をして、今回決まった。多くの市民に参加してほしい。

(質問) いじめ防止対策推進法が6月に成立し、9月21日施行となっているが、そこで示されたいじめ防止基本方針の策定について教育委員会の考えを聞きたい。

→(教育委員長) 市として策定していく。白山市子どもの権利条例の趣旨を十分尊重し、国の示す指針に従い考えていく。

いじめが起きない環境づくりと、いじめが起きたときには、小さい芽のうちにつみ取る体制づくりに力を入れていく。

(質問) 子どもたち自身が自分の権利について学ぶことがいじめ防止につながると思

「子どもの権利条例」はいち早く白山市で制定した条例です。これを生かしながら、いじめ問題に対応していくことが大切です。「人と違っていい」、「すべての子どもに安心して暮らす権利がある」ことの学習がいじめの防止に繋がっていくと考えます。「子どもの人権オンブズパーソン制度」は、個別救済だけでなく、制度改善も提言できる機関となります。教育に力を入れている白山市として、ぜひ、導入したい制度です。



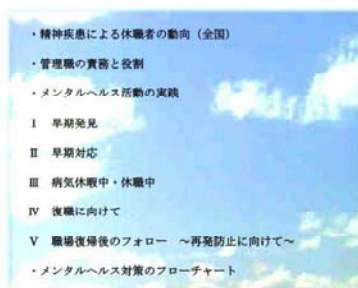
管理職のためのメンタルヘルス実践ガイドと管理職の責務を聞く

(質問) 県教委から8月に「管理職のためのメンタルヘルス実践ガイド」が発表された。内容は精神疾患の未然防止や早期発見に気を遣う。良好な人間関係を築いたり勤務のバランスを調整したりすることが管理職の責務などと書かれている。

このガイドで研修を行ったか。管理職の責務と役割をどのように考えるか。

→(教育長) 8月の定例校長会において配

管理職のためのメンタルヘルス実践ガイド



平成25年8月
石川県教育委員会

8月に突然発表。何があったのでしょうか。

うことと、悩みや相談をしっかりと聞くこと

うがどう考えるか。

→(教育委員長) 子どもの権利もしっかり勉強することを推進していきたい。

(質問) 相談体制整備として、公的第三者機関である「子どもの人権オンブズパーソン制度」の導入を検討できないか。

→(教育長) 子ども相談室では、子ども自身からの相談に、その子どもに寄り添いながら助言している。第三者機関の設置については、川西市の制度内容や実践例などを調査し、市の子どもの権利委員会において議論したい。

「子どもの権利条例」はいち早く白山市で制定した条例です。これを生かしながら、いじめ問題に対応していくことが大切です。「人と違っていい」、「すべての子どもに安心して暮らす権利がある」ことの学習がいじめの防止に繋がっていくと考えます。「子どもの人権オンブズパーソン制度」は、個別救済だけでなく、制度改善も提言できる機関となります。教育に力を入れている白山市として、ぜひ、導入したい制度です。

が大切である。

(質問) このようなガイドが出るということは、当たり前のことができない管理職がいるということであり、管理職登用に問題があるのではないか。

→(教育長) 管理職は県による管理職登用試験を経て、適切に登用されていると認識している。確かな教育理念、学校経営者としての確かな見識と判断力、教育に対する情熱。すぐれたリーダーシップを発揮して保護者や地域に信頼される学校経営を行う人物が登用されるべき。

(質問) リーダーシップを「教職員からの意見には耳を傾けずに独断的に学校を運営することである」と勘違いしている管理職がいるのではないか。全教職員による協力協働の学校運営を目指す管理職の登用をお願いしたい。また、教職員団体との適切な関係が管理職に必要と考えるが。

→(教育長) 理念遂行のため、先生方の理解が必要。十分話し合っただけが必要。また、教職員団体とも話し合うことが大事であると考え。「馬には乗ってみよ、人には添うてみよである。」



管理職の責務と役割を確認しました。管理職との人間関係が原因で休職者が出ている現状があります。また、病気で休んでいる先生方も少なくありません。管理職の力で押し切るのではなく、教職員集団と力を合わせて学校経営に当たる管理職を望みます。

教育・福祉予算の増額を求める

(質問) 勤務実態調査を今年もやるのか。具体的に勤務が過重にならないよう事務量を減らす具体的な工夫があったか。

→ (教育長) 勤務実態調査は今年も行う予定である。一例として国や県からの調査物について事務局で調べて回答するなど努力している。小さなことだが、改善できることはやっていきたい。

(質問) 事務量は減っていない。教育と福祉をアピールポイントにして、来年度予算の中で手厚くできないか。

→ (市長) 教育、子育て環境の整備・充実が最重要課題の一つととらえている。今まで、一律に削減はしていない。市民ニーズや事業の必要性、重要度を的確に判断した上で考えていく。

(質問) 教育や福祉は人がすべて。人に予算をかけてほしいが。

→ (市長) 人の配置は県の水準と同じである。特別に市の財政が良くなってきたときに全体を見直していけば良いと考えている。



多忙化を解消する方法は、仕事量(事務量)を減らすか、人を増やすしかないのです。県と同じだから良しとするのではなく、20年、30年後のことを考え、子どもたちのために投資することが必要です。

市長は最重要課題と捉えているのなら、野球場建設に多額の費用をかけるよりも教育・福祉に予算をつけるべきです。

最近参加した集会から

志賀原発廃炉に向けて

「志賀原発の廃炉に！訴訟」のサポーターになっており、9月30日に行われた裁判の傍聴に行ってきました。北陸電力からの反論もなく淡々と原告側の主張が述べられていました。次回12月2日の公判から北陸電力も反論を始めるようです。



福島現状を考えると、原子力発電所の安全神話は崩れました。さらに、最大の問題は使用済み核燃料などの高レベル放射性廃棄物の処理方法が決まっていないことです。ゴミの始末の方法が決まっていないのに、ゴミを作り続けること自体信じられません。ゴミの管理期間は日本では1万年、ヨーロッパでは10万年としています。こんな長期間にわたるゴミを子孫に残していいのでしょうか？

☆「志賀原発の廃炉に！訴訟」のサポーターを募集しています。原告弁護団は手弁当で取り組んでいます。ぜひご協力を！問い合わせは原告団事務局か直接山口まで

原告団事務局 〒9200024 金沢市西念3-3-5 TEL261-4657 HP<http://shika-hairo.com/>

寒くなってきます。体調管理に気をつけて下さい。



※市政へのご意見、ご要望をお寄せください。
TEL 275-0179 FAX 275-0924
e-mail toshiya@y-toshiya.com
ホームページ <http://y-toshiya.com/>